認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2017.11.30

IV-JAPAN Vol. 31

第 20 回スタディツアー

2017 年 8 月 30 日～9 月 9 日の日程で、今年も IV スタディツアーが実施されました。8 名の方々にご参加頂いた今回のスタディツアーはタイとラオスを巡る、大変充実した時間となりました。

ラオス・タソモ小学校を再訪して

ラオス首都ビエンチャンから車で北へ1時間ほどの場所にあるタソモ小学校で、幼稚舎のハンドオーバー式が行われました。参加したのは8名のツアーグループです。ほとんどのメンバーが再訪であり、私も2013年以来2回目の学校訪問となります。前回の訪問でも校舎を10年間大切に使ってくれていたのが覗えましたが、今回は幼稚舎の増築に合わせて外壁も塗り直されていて校舎内もきれいに保たれていました。同時にプレゼントとしてサッカーのユニフォームを贈呈。東京都墨田区にある外出サッカークラブがユニフォームを一新するということで古いものを60枚以上も寄贈してくれたものです。お揃いのユニフォームを着て記念撮影をする選手たちは緊張のせいか笑顔が固まっていましたが、サッカーボールを渡すとすぐにみんな楽しそうにボールを追いかけ始めました。

午後は残りのユニフォームをラオスサッカー協会へ寄贈。会長は海外出張中でお会いできませんでしたが、他国からの支援により選手育成が進み力をつけてきていると理事からお話しを伺うことができました。

両方の訪問を通じて、学校が村の活性に繋がりさらには卒業生が親になりその子供たちもタソモ小学校へ通い、サッカー選手に憧れて子供たちがやりがいを持ってサッカーの練習をしてますます笑顔が増えて行く。その姿が見たいし、子供たちの笑顔を見て元気がもらえるこの活動を私も後世に繋げて行きたいと思いました。

（安田昌美　記）

タソモ小学校、ハンドオーバー式にて

サッカーボールに大喜びの子ども

タイ・メーホーソンの子どもを訪ねて

ラオスで吉野・安田さん達と別れ、チェンマイへ。翌日から長時間のドライブの連続。いくつもの峠をクネクネと山奥のメーホーソン県の学校に向かいました。

学校到着後は制服を着た学生が集合。ラフー族、タイヤイ族の民族舞踊で歓迎を受け、冨永氏により 12 名ひとりひとりに奨学金の贈呈。貸与条件は家が貧しい、成績優秀、学校での職業訓練などの活動が熱心であること。贈呈後、奨学生の自宅を訪問。学校に近いラフー族 2 軒、車で 40 分のチャン族の家庭 1 軒。ラフー族の家庭は高床式で壁・床の四方八方からから風が通り抜けるような家屋でしたが、皆さん気持ちよく対応していただき部屋の中まで見学しました。

翌日は車で 3 時間、船で 20 分かけハーボーン地区の首長族村へ。観光シーズンを外れていたため、首・手首・膝下に金の輪を付けた首長族の現地人と、この村に嫁いできた美しい母親とかわいらしい 1 歳の男の子と我々のみ。家屋は木の葉を組み合わせたような屋根の家でしたが、村の中はゴミひとつありませんでした。首長族の風習は 6 歳になった女児から始まりますが、最近この儀式を受けたのは一人だけだそうです。

今回のツアーはハードでしたが、現地の人々と触れ合う機会が多くとても充実した旅でした。モン族の家庭料理、蒸したもち米・豊富な珍しい果物に満喫しました。

（宅和静枝　記）

創立 30 周年記念イベント

～実行委員長・池田敏秀よりお願い～

「ラオスってどこ？」

１８年前、ＩＶ－ＪＡＰＡＮの活動に仲間入りさせていただいたころ、こう言われたものです。でも今はテレビやマスコミも多く取り上げられ、この国への興味・憧れは一気に加速しております。我がＩＶ－ＪＡＰＡＮの地道な活動がそれを下支えしていると言っても決して過言ではないと思っております。そのＩＶ－ＪＡＰＡＮが来年創立３０周年を迎えます。今そのセレモニーに向け、実行委員会を立ち上げ、急ピッチで準備をしているところですが、本号ではその予告編として概要をご案内するとともに、運営のためのご寄付をお願いする次第です。

２０１８年６月２日の午後、資生堂美容学校（東京都）をお借りして行います。プログラムは別掲の通りですが、ラオスを知り、我がＮＧＯの活動を振り返り、また未来への展望を描き、そして皆様が一堂に会して親交をはぐくむ、そんな温かい会にしたいと思っております。ラオスの名品や雑貨が当る抽選会、ラオビールも飲める懇親会も予定しております。ご出席を心よりお待ちしております。

なお勝手ながら、本企画の運営のために一口１，０００円のご寄付にお願いいたします。皆様のご寄付を本企画の運営費に充て、余った寄付金に関しましては、当会の運営費に充てさせて頂きます。

ご賛同いただけましたら、事務局にご連絡、もしくは同封の振り込み用紙でのお振込みをお願い申しあげます。口数に応じた入場券を後日（３月以降）お送りいたします。

IV－JAPAN 創立30周年 記念報告会のご案内（第１報）

≪お問い合わせ≫
IV-JAPAN30周年記念行事実行委員会
tel&fax 048-622-8612
e-mail： iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
実行委員長:池田敏秀（IV-JAPAN副代表）
tel 080-1293-1506
e-mail ： t-ikeda@mpd.biglobe.ne.jp

2018年6月2日(土)
資生堂美容技術専門学校
（東京都板橋区加賀2-15-1）

プログラム（案）

13:30 冨永代表挨拶
13:40 来賓の紹介と挨拶
13:50 活動報告
・30年の歩み （事務局）
・IVユースの活動報告
・現役学生のIV体験
14:35 特別表彰と基調報告
14:50 休憩
15:00 職業訓練校卒業生のその後
Bounphavanh 美容院経営
15:15 ラオス文化紹介
古都ルアンパバーン
虫明悦生氏によるケーン演奏
民族衣装ファッションショー
16:15 抽選会（ラオス名産品が当ります）
16:30 閉会の辞
16:35 懇親会（軽食とラオビール）
17:15 解散

25周年記念の一コマ

職業訓練風景（調理）

JICA 新木工事業

今年 3 月に、JICA より採択された『ラオス木工職業教育校におけるトレーナーの技能向上プロジェクト』が、いよいよ始まります。先行事業である『JICA 木工職業訓練』の経験から、ラオス全体の木工教育レベル向上の必要性を強く感じ、新事業として全国の木工トレーナー研修を 4 年間実施します。

豊富な木材資源を有する『森の国ラオス』も、違法伐採による海外への木材資源流出に頭を抱えています。これに対しラオス政府は木工産業のレベルアップにより、良い家具の生産、販売による住民の利益向上と違法伐採の防止に取り組もうとしています。

新事業では、木工トレーナーや専門技術者を養成する『職業教育校』の指導者を対象とした研修に力を入れ、彼らの指導力と技能の向上を目指します。本事業の実施により、『職業教育校』の実習レベルが向上し、学生達はより高い木工技術を習得することができるようになります。

そして将来、高い木工技術を身に付けた卒業生達が、木工トレーナーや家具工場の技術者として活躍することで、ラオス木工業界のレベルアップにつながるのです。近い将来、木工家具がラオスの基幹産業となり、ラオスの人々の生活を向上させることを願ってやみません。

マイクロファイナンスローン

IV-JAPAN マイクロファイナンスの木工第 1 号が出ました。サイソムブーン県出身のリーウォントーはモン族で、先行木工事業の 6 期上級コース修了生です。訓練生の中で 1、2 を争うほど優秀だった彼は、4 人の子供の父親。生活向上のために、家具製作で身を立てる決意のもと、マイクロファイナンスに応募し、8 月に支給が決定されました。

チャンパー山の民奨学金

ラオスは、旅行、ロングステイ先として人気が高く、最近では日本人の間でもラオスの魅力が認知され始めています。IV-JAPAN も社会の変化に合わせて、新分野の職業訓練を計画していますが、その 1 つが山岳民族の女性・青少年のための『ホスピタリティ＆介護』職業訓練です。両親や目上の人を敬う心を持ち、ホスピタリティに溢れた山岳民族の若者達は、ラオスのホテルやレストラン、家事代行などのサービスの向上や、社会経済の発展に、大きく貢献する力を持っています。

持続可能な開発目標（SDGs）の『誰一人取り残さない(No one left behind)』を念頭に、今後 IV-JAPAN は、ラオスの中でも特に貧困な生活を送っている山岳部に住む人々に焦点を当て、『ホスピタリティ＆介護』を皮切りに、これからも職業訓練事業を実施していきます。そのためには訓練生達への経済的サポートがより重要となるわけですが、授業料分をカバーするための従来の『カノック奨学金』ですと、訓練期間中の生活費を工面することができず、本当に貧しい女性・青少年達の訓練への参加を促すことが困難です。そこで今回、訓練中の食事や生活費、行き帰りのバス代をサポートするための『チャンパー山の民奨学金』を新規に設立いたしました。本奨学金により、ラオスの山奥に住み、教育の機会に恵まれない若者達に、経済的自立への夢と希望を与えることができるのです。

IV-JAPAN の新しい取り組みである『チャンパー山の民奨学金』の詳細は、同封したチラシをご覧いただければと思います。新奨学金へのご理解を、何卒よろしくお願いいたします。

出前講座

高岡万葉ロータリークラブ　　2017/11/10

富山県高岡万葉ロータリークラブのご支援は今年で5年目となりました。今年はラオスには皆様はいらっしゃらないで、冨永が高岡に招かれてクラブの例会でご報告させていただきました。会場はホテルニューオータニ高岡で、おいしい夕食の後に卓話となりました。過去4年間の寄付金は主にミシンローン（利子無し）で縫製の卒業生の起業に大変貢献することができました。また、各県の職業訓練センターの資機材不足を補うため、ボリカムサイ県やシェンクアーン県の縫製コース、ビエンチャン都の上級コース OJT①&②と木工コースに工業用ミシン、ロックミシンをご寄贈いただきました。今後は新しく始まる「ホスピタリティ・介護職業訓練」に参加する、地方の貧しい主に山岳民族の訓練生の「チャンパ―山の民奨学金」にご協力していただくことになりました。厚くお礼を申し上げます。

文京学院大学　【開発とは？　行動しましょう！】　2017/11/15

当会理事の伊藤裕子さんが勤務する文京学院大学人間学部（埼玉県ふじみ野市）国際交流委員会の招きで冨永代表が11月15日に講演しました。当日は、150名ほどの学生が参加し、関係する先生方の学生が聴講しました。「日本にも貧しい人がいるのになぜ途上国支援なのか？」の問い掛けに始まり、自分のちょっとした行動が社会を変えていくきっかけになる。来春にはGCIの学生がラオスでインターンシップを行うので、結果が楽しみ。「必ずしも関心のある学生ではなかったかもしれませんが、国際貢献の種を撒いて頂いた」と関連教授たちの感想でした。

国内活動レポート

9/30、10/1	・グローバルフェスタJAPAN2017（お台場）
10/8	・国際ふれあいフェア2017（浦和）
10/28	・2017大宮区民ふれあいフェア（大宮）
11/5	・国際フェア2017（さいたま新都心）

海外と関わりのある様々な団体が出店した各種国際イベントにおいて、IV-JAPANのブースではラオスの雑貨販売とラオスや当会の紹介を中心に、多くのお客様をお迎えすることができました。

雑貨の販売が好調だったことも幸いでしたが、「ラオスクイズ」、「ラオ語名刺プレゼント」、「ラオス衣装体験」を通じて、多くの方々が「ラオスって素敵！」と感じて下さったこともとても嬉しかったです。「そのラオスで長年活動しているNGO」として、当会の活動をアピールすることもできました。また、ブース出店がきっかけとなって、ラオスに関わりのある方々や、国際協力に興味のある方々との、たくさんの新しい「出会い」も生まれました。

当会の活動がきっかけとなって、人と人が繋がって、新しい活動が生まれていく。SNS 等の「バーチャルな繋がり」が急速に普及している世の中ですが、アナログで、でもどこか温かい、そんな「リアルな繋がり」も大切にして、今後も活動を続けていこうと感じました。

ご来場下さった方々、ご協力下さった方々、本当にありがとうございました！

新理事紹介

ＩＶ－ＪＡＰＡＮとの関わり　河島　一郎

私が IV-JAPAN の活動に初めて参加したのは 2004 年の奨学金ドナーでした。冨永代表とは叔母甥の間柄であるため、以前から代表の積極的な NGO 活動は身近に感じていましたが、細々と奨学金ドナーを続ける程度しか関わっていませんでした。若い頃は自分のことだけで手一杯でしたが五十歳を過ぎた頃から、人生の後半は自分を育ててくれた人々や社会、次世代のために何か役立つことをしたいと考えるようになりました。

そんな中、偶然にも叔母から IV-JAPAN を手伝わないかと誘われ、自分に何が出来るかは分からないが、きっと新しい一歩に繋がると思い、今回、理事を務めさせていただく運びとなりました。

私が初めてラオスの地を訪れたのは 3 年前の 8 月で、代表の姉である母を含めた家族全員で訪れ、IV-JAPAN の現地事務所や職業訓練所の様子を見学するとともに、首都ビエンチャンやルアンパバーン周辺を駆け足で観光してきました。その時に感じたことは、都心部と農村部の生活レベルの差が大きいこと、海はないが自然が豊かであること、タラート（市場）が賑わっていたこと、人々の生活が常に仏教とともにあること、欲がなく争うことを好まない優しい国民性であることなどで、経済的には貧しいけれど何処に行っても現地の人の笑顔が絶えない素敵な国だなぁと思えたことが印象に残っています。理事就任直後の今年 7 月に再訪し、担当する事業の見極めを行いましたが、たった 3 年の間に各所で様々な建設が進んでおり、ラオスは今、大きな変革期を迎えつつあるということを実感させられました。

また、この秋に国内で実施されたイベントの出店をお手伝いした際に感じたことは、ラオスやラオスでの職業訓練に関わる IV-JAPAN のことを知らない方が大勢いるということでした。
IV-JAPAN の活動を理解し協力してもらうためには、まずラオスという国に関心を持ってもらうことから始める必要があると感じましたので、今後は、より積極的に各種イベントへの参加や関係機関との調整に関わり、ラオス及び IV-JAPAN を盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

※写真は 10 月 5 日にラオス大使館で行われたオークパンサーを祝う会で、駐日ラオス大使夫妻とともに撮ったものです。一番右は私の妻です。

理事紹介　福永文代

福永さんは冨永の高校時代の親友で、スキーにもよく誘われてご両親と一緒に行きました。彼女の家はとてもモダンで、小さい時からバイオリンにも親しみ、大学ではハワイアンバンドを編成してボーカルとキーボードを担当していました。結婚してからは子ども好きのため幼稚園で児童英語を教えていました。また、女性だけの東京 WILL ライオンズクラブにも所属して、当会のラオス木工職業訓練に毎年 10 年間続けてクラブからの支援をいただいて、木工職業訓練の基礎を作ることができました。ご主人のご他界のショックで 1 年半の間入院生活をすることになりましたが、退院したのをきっかけに当会の理事にも今年から就任していただきました。文代さんは以前と変わらない生活に戻り、ライオンズクラブ、フラダンス、コーラスを続けています。当会の 30 周年式典には彼女の幅広いネットワークに期待して、たくさんの人を誘って来てくださるでしょう。

（冨永幸子 記）

幸子のラオス便り　No. 37

穏やかな気候と国民性で、どこかのんびりした空気が魅力的なラオス。そんなラオスでも、交通事故を見ない日はありません。
2016 年に「アジアのノーベル賞」と称される「マグサイサイ賞」を受賞した、活躍目覚ましいラオスの民間救急隊、ビエンチャンレスキュー。市民の大切な命を救う、彼らの活動の様子をレポートします。

【 ラオスの民間救急隊“ビエンチャンレスキュー1623”の活躍 】

ラオスでは、公的な消防署はありますが、民間組織のビエンチャンレスキュー「1623」という民間救急隊があります。もう一つ同じ名前の民間組織「1624」もありますが、首都ビエンチャンで一番活躍しているのが「1623」で、この数字は電話番号です。このビエンチャンレスキュー「1623」の救急活動は国際的にも評価されています。

ビエンチャンレスキュー「1623」は、2010 年に 7 人のボランティアで始まりました。現在 400 人のボランティアが、24 時間待機して活動してます。首都ビエンチャンに 4 か所の出動待機所、南部パクセー県に 1 か所、今月 11 月にはビエンチャン県（首都の他にビエンチャンという県がある）バンビエン郡に、来年にはサヤブリ県とルアンパバン県に拠点を開設する予定です。

ビエンチャンレスキュー「1623」によると、ビエンチャンでは月平均 500～800 件の事故が起きていて、2017 年には被害者は 1 万人に及ぶと予測されます。およそ 90%弱が交通事故です。他は火災による事故が 3～4%が、出産時の事故が 2%、水難事故が 3%、蛇にかまれたケースが 4%、となっています。蛇は庭にも野原にも出ます。JICA ラオス事務所によると、世界約 180 ヵ国中 JICA 関係者が過去 8 年に交通事故にあったのがラオス 44 件で第 2 位、ちなみに 1 位がマラウイの 53 件ですので、ラオスでは、いかに交通事故が多いか分かります。

こんな話を関係者からお聞きしました。いわゆる若者のバイク暴走族が交通事故を起こし、必死の救命活動にも関わらず死亡したケースです。翌日ビエンチャンレスキューをその仲間の一人が訪ねて来ました。自分も救急隊員になりたいと。

彼の姿を見ると耳にはピアスをいくつもつけて、腕輪を幾重にも巻きつけています。まず、すっきりできますかと聞くと、はいと言い、アクセサリーは全部取りました。それからはとてもまじめに取り組み、タイのコンケン大学で救急救命士の資格も取って、今では大活躍しているとのことです。

しかし、レスキューの運営や財政的には厳しさもあります。IV-JAPAN のお多福レストランから処分する鍋や食器類の寄付をしたいとビエンチャンレスキューの代表に伝えました。部下を取りに行かせるとのことです。私が個人使用にならないでしょうねと、危惧したら、そんな心配はいらない、彼らは全員ボランティアで誰も給料をもらっていない。社会のために働きたいまじめな集団ですと、言われ、びっくりしました。全部寄付で賄い、ビエンチャンレスキュー待機所には三つ折りの簡易ベッドと 3 食が提供されるだけです。正直そんなに寄付が集まるのか驚きましたが、レスキューのホームページを見て、国内外から寄付が集まり、ラオス駐在の各国大使館、企業や個人の寄付もあるとのことです。

ラオスではあまりボランティア活動は盛んではないのですが、ビエンチャンレスキューではボランティア隊員が 400 人もいると聞いてびっくりです。レスキューの皆さんは、若者が多いのですが、定職は持たず、交代で待機しています。人助けをしてお役に立ったという精神的な喜びがボランティア活動を続ける原点になっているのでしょう。

救急搬送を依頼する際は、病院に電話して、病院救急車を手配して貰うか、レスキューチームに依頼するかになります。レスキューチームによる搬送は無料となります。ラオスでは通常病院で治療を受けるには、まず会計を済ませてから治療が行われます。搬送してもお金のないため治療してもらえない場合は、別の病院へ運ぶか、治療せずに廊下に放置されるかです。レスキューチームではトレーニングが行われていますが、まだまだ先進国レベルには追いついていないのが現状で、到着時に心肺停止であれば心肺蘇生を試みますが、必要医薬品等が整備されているという訳ではありません。火災消防活動については、ビエンチャンレスキューには大阪の豊中市から寄贈された消防自動車が1台あるだけですが、年間平均100回火災現場に出動しています。

お多福から食器類を寄付

【 公的機関の消防署の活動 】

ラオスには公立の消防署が全国に56ヶ所、内、ビエンチャン都には7か所あり86名が勤務しています。緊急電話番合が1190で、24時間対応しているとのことですが、公的な救急活動は行われていません。30年前に日本から7台の救急車の新車が寄贈されたようで、現在も動いている車両と後ほど中古で送られたものとで現在も稼働しているのは5台だそうですが、現場には出動していないようです。消防車は19台を所有していますが、4台は故障していて使えない状況です。昨年の出動回数は75回、今年はこれまでに50回です。消防車が駐車している場所が1カ所のみのため、消防車の出動を依頼しても到着に時間を要するというようなことがあるようです。また、1190はコールセンターとはなっておらず、火災発生時に電話をしても繋がらないというような状況もあるようです。昨年トンカンカム市場で火災が起こり、消防署が市場の裏にあるにも関わらず、出動しなかったことがありました。ちゃんと機能していないと市民のクレームをたくさん聞きました。

IV-JAPANでは、ビエンチャンレスキューの要請により、現在、埼玉県国際交流協会を通して、埼玉県内の市町村に中古救急車と消防自動車の寄贈を呼び掛けていただいています。

千客万来

ラオス事務所・ラオ日本文化センター

8/3、9　【 青年海外協力協会（JOCA）沖縄・高校生13名、引率者5名 】
8/5　【 ガールスカウト　沖縄連盟・中学生3名、高校生1名、引率者2名 】
8/16　【HIS・新美所長】
8/30－9/9【 第20回スタディーツアー・
斎藤 加代氏、吉野 貴美子氏、野口 幾代氏、
安田 昌美氏、佐々木 亮氏、佐々木 昌子氏、
宮澤 雅博氏、宅和 静江氏の計8名 】
10/16　【 愛知商工連盟協同組合・福田　譲氏 】
11/1　【 パナソニック国際渉外部・中村 淳一氏 】
【 関西学院大学・高月 渚氏 】

ガールスカウト沖縄の皆様

日本事務所

11/16　【 テレビジョンフィールド・
徳永 英一氏、佐双 秦介氏 】
11/22　【 さいたまNPOセンター・村田 恵子氏 】
11/24　【 埼玉県　県民生活部　国際課・藤江 恵子氏 】

NPOセンター・村田様

【 寄付者一覧 】

☆ご協力ありがとうございました ☆　　―順不同・敬称略―

【 カノック奨学金ドナー紹介 （2017/8/1 から 2017/11/30 まで） 】
近藤利雄（2 口）、北條正子、太田榮次（2 口）、荒井みどり、松下倶子、五十嵐香苗、新井良夫（2 口）、高見沢啓二、James A Cummings、又吉ミチ、

【 運営・プロジェクト費寄付者一覧 】
（2017/8/1 から 2017/11/30 まで。3,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）
高岡万葉ロータリークラブ（300,000 円）、愛知商工連盟協同組合（180,000 円）、又吉ミチ（8,500 ラオキープ、649.50 タイバーツ＝約 2,300 円）、佐復正雄（3,000 円）、小林愛子（5,000 円）、川合満喜子（5,000 円）、松下倶子（3,000 円）、上田義明（3,000 円）、田中誠吾（3,000 円）、市川和良（3,000 円）、関矢綾子（3,000 円）

【 ドナー募集 】

＜随時会員を募集しています＞
奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します。

① 奨学金ドナー　年１口　**12.000 円**以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年１口　3.000 円以上　★団体及び法人 年１口 10.000 円以上

・申込方法（銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下４桁の明記をお願い致します）
郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　（※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。）
（普通）　口座番号:5038052　　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

【 編集後記 】

初めての会報作り、多くの方々に協力して頂き、なんとか無事に終えることができました。協力して下さった皆様、本当にありがとうございました！今回は今までと少しデザインを変えた会報に仕上げてみました。読んで下さった方々に、IV の近況が伝われば幸いです。

日本事務局　瀧口恭平

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

日本事務所　開所時間 午前 10 時～午後 5 時
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612　FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX ： +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya　(Rajavithi9), Rangnam, RajavithiBangkok 10400　Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QR コード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）